



連 絡 先
三重県総合文化センター 三重県文化会館 事業課 演劇事業係 (担当者) 堤 佳奈 (電 話) 059-233-1100 (FAX) 059-233-1106 (E-mail) tsutsumi@center-mie.or.jp (堤)

三重県総合文化センター(通称:そうぶん)を愛する総勢 50 名近くが参加!

そうぶん 30 周年記念ムービー公開

1. 企画趣旨

三重県総合文化センター(そうぶん)は、文化会館・生涯学習センター・男女共同参画センター「フレンテみえ」・県立図書館・放送大学三重学習センターから構成される複合文化施設です。そんなそうぶんも今年で開館 30 周年。コネクトそうぶん*では、次の 10 年、20 年後に向けて、職員とそうぶんの未来を話し合う「みんなのそうぶん会議」を 4 回にわたって実施。そこで生まれた未来図を、日頃支えて下さる皆様と約 5 分のムービーにしました。そうぶんの未来に向けた決意表明と、皆様への感謝を込めて、8 月のお披露目を皮切りに、WEB や館内など様々な場所で放映予定です。

*コネクトそうぶん…

三重県総合文化センターと地域の皆様に「つなげる」、様々な分野の皆様と「つながる」ことを目指して 2021 年に生まれた部署横断型のプロジェクトチームです。これまでにタノシソウブンでの子ども向け企画や聾学校へのアウトリーチ等を実施しています。



↑「みんなのそうぶん会議」の様子(最高の未来、最悪の未来を付箋に書出し、各グループの未来図を発表)

2. 制作過程

令和 5 年 7～9 月 「みんなのそうぶん会議」を 4 回にわたって実施

参加人数: 三重県総合文化センター職員のべ 80 名

令和 5 年 10 月

～令和 6 年 4 月 シナリオ・絵コンテ作成

令和 6 年 5 月～ 撮影開始

5 月 14 日(火曜日) 撮影場所: 海女小屋体験施設さとうみ庵(志摩市)

5 月 26 日(日曜日) 於: 三重県総合文化センター(第 30 回みえ県民文化祭内)

6 月 2 日(日曜日) 於: 三重県総合文化センター(三重ジュニア管弦楽団練習)

6 月 23 日(日曜日) 撮影場所: 熊野古道松本峠(熊野市)

令和 6 年 7 月～ 編集

令和 6 年 8 月 お披露目会

※以降、手話通訳、日本語字幕、英語字幕、音声ガイドバージョンを製作し、館内・WEB ほかにて放映。

3. 出演・協力

■出 演

【シーン：そうぶんを支える人々】

国際セーフティー株式会社、三重県舞台管理事業協同組合、エヌビーエス株式会社、玉城政子（園芸ボランティア）

【シーン：そうぶんで働く人々】

職員：藤田典人（弾き込みボランティア） 利用者：東益子（弾き込み、広報ボランティア）

盲導犬ユーザー：内田順朗

【シーン：そうぶんを楽しむ人々】

家族連れ：中澤瑛恵（三重県生涯学習センター）、竹内徹、竹内陽香 本を読む人：宇田恭子（フレンテみえ）

子どもたち：中村祭里、中村大和、前川すみれ（以上、MieMu テーマ曲参加者）、前川ひかり、吉岡咲織

【シーン：そうぶんで夢を見つける人々】

子ども：中村祭里（MieMu テーマ曲参加者） 職員：谷川蒼 演奏：三重ジュニア管弦楽団

【シーン：未来のそうぶん会議】

シニア：辻屋康子（老いのプレーパーク） オンラインの参加者：橋本順基（三重県総合文化センター 総務部）

高校生：土屋有彩（なりかわり標本会議メンバー）

参加者 1：高木俊雄（なりかわり標本会議メンバー）

参加者 2 & 子ども：服部祐依（三重県総合文化センター 総務部）、服部瑞樹

エキストラ：長谷川舜、近藤穂波（両名とも施設利用サービスセンター）、安川真由美（三重県総合文化センター 総務部）

【シーン：未来の海女小屋】

海女1：北村的 美 海女2：林喜美代

【シーン：未来の熊野古道】

高校生1：藤田莉乃音（三重県立木本高校） 高校生2：小藪璃緒（三重県立木本高校）

外国人観光客：Shane Wee Toon（三重県立木本高校 ALT）

チラシ出演：安田果穂（関西フィルハーモニー管弦楽団チェロ奏者／三重ジュニア管弦楽団 OG）

【シーン：未来の舞台】

大人になった女の子：山本美咲（三重ジュニア管弦楽団）

■演奏協力 三重ジュニア管弦楽団 OB（増田葉音、増田七彩、中西碧、山田亮平）

■協力

夢の手づくり市、三重県立木本高校、三重県立熊野古道センター、志摩市観光協会、海女小屋体験施設さとうみ庵、社会福祉法人三重県聴覚障害者協会、社会福祉法人三重県視覚障害者協会

■英語字幕制作 入川桂子（三重県総合文化センター 総務部）

■制作進行 堤佳奈（三重県文化会館）

■撮影 三重テレビ放送

■企画制作 コネクトそうぶん（三重県総合文化センター部署横断型プロジェクト）

■主催 三重県総合文化センター〔指定管理者：公益財団法人三重県文化振興事業団〕

4. お披露目会

(1) 日 程 令和6年8月25日（日曜日）14時00分～15時00分

(2) 会 場 三重県総合文化センター 三重県生涯学習センター2階 視聴覚室

(3) 内 容 記念ムービー上映、ゲストによるワークショップ、出演者の記念撮影ほか

(4) ゲスト 水谷香織（パブリック・ハーツ株式会社 ファシリテーター）

※「みんなのそうぶん会議」ファシリテーション～シナリオ監修まで伴走

(5) 問合せ 三重県文化会館 事業課 059-233-1100（10時00分～17時00分／月曜または月祝翌日休館）

5. 未来のそうぶんシナリオ【20XX 年、ある日の三重県総合文化センター】

《そうぶんを支える人々》朝日とナナ像。警備、舞台スタッフ、チケットカウンターやアートショップの仕事風景が流れる。鼻歌を歌いながら水やりをする園芸ボランティア。すると花も歌いだす。

《そうぶんで働く人々》施設利用サービスセンター。貸館にやってくる人たち。盲導犬ユーザーの利用者もいる。

その中に地図を持って道に迷っている人。職員が肩を叩き、UD トーク（音声を文字化するアプリ）で話しかける。以下、声と UD トークを併用してコミュニケーションが行われる。

職員「どこかお探しですか？」（胸には難聴者マーク）

利用者「ここに行きたいんです（地図を指さす）」

職員「多目的ホールですね。ご案内します」

利用者「あっ、お願いします」（多目的ホールへ移動する）

職員「こちらです。楽しんでくださいね」

利用者が精一杯の手話で「ありがとう」と伝える。笑顔になり手話で「ありがとう」と返す職員。

《そうぶんを楽しむ人々》

空に泳ぐこいのぼり。広場。手づくり市をやっている。ベビーカーを押した家族や、図書館の本を片手に一人時間を楽しむ人など、思い思いにそうぶんを楽しんでいる。駆けてく子どもたち。ヴァイオリンの音が聞こえてくる。

《そうぶんで夢を見つける人々》

三重ジュニア管弦楽団の演奏を覗く子どもたち。

子ども「キレイな音…」

職員「ここは三重県中の子どもが集まって、オーケストラの練習をしとるんよ」

子ども「へー」

職員「音楽で繋がったお友達は一生の宝物。かけがえのない経験ができる場所やに」

子ども「私もやってみたい！」

《未来のそうぶん会議》

そうぶん会議の看板。ホワイトボードには「かるみー Vtuber 化！&メタバース進出」「育休・介護休暇全員取得」「託児所の利用について」「働きやすい会社業界1位」「AI コンシェルジュ」「“超” バリアフリー施設」…

シニア「そうぶんに通って 50 年やけど、館内広いから自動で運んでくれる乗り物があるとうれしいなあ」

オンラインの参加者「いいですね！「バクトウーザフューチャー」のホバーボードみたいなの！」

中高生「ポリウッド映画のダンス習ってみたい。めっちゃカッコイイんよ」

参加者1「インドと繋いで、放課後そうぶんアート塾やっちゃう？」

中高生「やったー」

参加者2「広場で家庭菜園とかどう？家族で楽しめるし」

オンラインの参加者「やりたい！とれた野菜をレストランで食べたいな」

多様な人々が和気あいあいと夢を語っている。（音楽）

《未来の海女小屋》

海女小屋で仕事終わりに海女さんが音楽を聴いている。

海女 1「なに聞いとんの？」

海女 2「ん、明日そうぶんの全自動運転バスでコンサート行くんよ」

海女 1「えーいいやん！私も連れてってー」

《未来の熊野古道》

熊野古道のボランティアガイドをする高校生 2 人と外国人観光客。

石畳のうえに腰を下ろし、タブレットを見る。

高校生1「今話題のこの人、いよいよプロデビューやって！全宇宙生配信やり」

高校生2「三重ジュニア管弦楽団出身らしいで」

外国人観光客「It's Amazing」

高校生2「あっ、出てきた！」

《未来の舞台》三重ジュニア管弦楽団の演奏を聴いて「私もやってみたい！」と言っていた子の後ろ姿と、成長した後ろ姿。舞台裏で準備するスタッフ。開演ブザー。客席は満員。光の中、舞台の幕が上がる。